

## 学校経営推進費評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

<b>学校名</b>	大阪府立高槻支援学校
<b>取り組む課題</b>	生徒の自立支援
<b>評価指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校教育自己診断アンケートの満足度の向上。</li> <li>• 学校生活における児童生徒・保護者の満足度の向上。（運動や肥満についてのアンケート）</li> <li>• 卒業後の就労率の向上。</li> </ul>
<b>計画名</b>	～TOPP～高槻からオリンピック選手を～ 高槻オリンピック・パラリンピックプロジェクト

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

<b>学校経営計画の 中期的目標</b>	<p>卒業後の 支援のある自立生活 をめざしたキャリア教育の推進。</p> <p>① 小学部の段階から、障がいの特性や発達段階に応じてキャリア教育の推進を図る。 ② 基礎的な体力の向上と豊かな心を育むための児童生徒の活動内容を追及する。 ア 運動や遊びを通じて基礎的な技能を獲得し体力を向上させる。 イ 肥満予防の観点から食育を推進する。</p>
<b>事業目標</b>	<p>① 本校は鉄道に挟まれた住宅街に立地していることから、気軽に校外に出かけることが難しい。また一昨年に創立 50 周年を迎えた本校は、校内施設や既存の遊具、用具が老朽化している。そのため、子どもたちの運動の量的・質的な不足を通常の授業でカバーすることに困難を感じている。</p> <p>② 個人差はあるが、多くの知的障がい者の体力は、健常者と比較して 40～60%（青年期は 60%）程度に留まっているとされている。若年時からの低体力が、青年期の作業成績や、その後加齢による健康に影響していることも示唆されている。身体能力や体力と職業能力には関係があるとされている。</p> <p>③ 知的な遅れや発達に遅れのある子どもは、うまく身体を使いこなせないことが多い。友達との関わり方や、人との距離感を保つことに困難を感じるのは、それが原因のひとつとなっているケースがたくさんある。キャリア教育が問われる昨今において、こうした子どもたちの「人とのかかわり方」や「運動の技術」、「からだの操作」、「さまざまな運動体験による成長・発達」に視点を置いて本事業に取り組みたいと考えている。</p> <p>④ 本事業を立ち上げることで、子どもたちが主体的に安心して気軽に活動できる環境を整え、運動不足を解消する取組みを計画的に進めていきたい。この取組みによって「からだづくり」を図り、肥満を防止し、「生きる力」のベースとなる心身を育むことで、子どもたちの生涯におけるキャリア発達を支える基盤をつくりたいと考えている。</p> <p>⑤ 幼少期からの「からだづくり」の必要性を我々教員がもう一度考え、子どもたちの自己実現や自己肯定感の獲得をめざして計画を進めていきたい。</p>

<p><b>整備した 設備・物品</b></p>	<p>大型遊具（肋木、梯子、クライミングウォール、ロープ、踊り場など）</p>
<p><b>取組みの 主担・実施者</b></p>	<p>主担者：体育科教員 実施者：全校教職員</p>
<p><b>本年度の 取組内容</b></p>	<p>4月： 休み時間、授業（体育・チャレンジ）の時間等における大型遊具の使用を開始。授業では、大型遊具と運動用具とを組み合わせることで、サーキットのコースとしても活用することが可能になり、運動のバリエーションを広げることが可能となった。</p> <p>6月： 大阪北部地震の被災により、大型遊具及びグラウンドを含めた広範囲にわたった改修が必要となり、年内の使用は不可となってしまった。</p> <p>2月： 改修用のフェンスの撤去と共に児童生徒の遊具の使用を再開することができた。再開をうけて、子ども・保護者と教員に向けてのアンケートを実施し、大型遊具の活用状況及び運動の成果について検証を行った。</p>
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<p>① 独自のアンケート（肥満や運動について）を作成し、実施する。（子ども・保護者向けに実施）</p> <p>② 学校教育自己診断による評価満足度の向上（80%）</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p>① アンケートの質問を、自分の子どもに対しての質問か、子ども全般に対しての質問かがわかるように説明を補足する等、内容は同じであるが、回答しやすい質問文に変更した。その効果もあり、子ども・保護者向けのアンケート回答数が昨年度の137から今年度235に増えた。内容からは、子ども・保護者の大型遊具についての認知度、および関心度が高まってきたことが読み取れる。</p> <p>ア「お子様にとって運動は大切だと思う」99%「お子様にはもっと運動してもらいたいと思う」84%など、運動への保護者のニーズが高いことがわかる。その中でも、「新しい遊具はお子様に興味を持って活動できる設備だと思う」が81%に増加（前回は74%）、「新しい遊具はお子様の運動能力向上に向いている」が75%（前回72%）となった。</p> <p>大型遊具の使用により運動する機会が増加し、アンケートの記述欄の内容からも保護者が効果を実感されているのがわかった。</p> <p>今年度から教職員のアンケートも実施した。「児童生徒は楽しんで遊具を使っている」88%「以前の遊具よりも今の大型遊具の方が運動能力を高める」76%「クライミングボードでの成功体験を通して、自己肯定感を高めることができる」79%「遊具ができたことで、行事や余暇活動の幅が広がると思う」79%。大型遊具の活用により、児童生徒が積極的に運動に取り組み心身両面での発達に効果的であるという回答が多くを占めた。……………（◎）</p> <p>② 学校教育自己診断の集計結果において、「子どもが楽しく運動するための環境整備ができている」の保護者の集計結果が、89%（前回87%）と増加し、大型遊具の活用に関して認知度が高まっていることがわかる。一方、教員の集計結果が79%（前回83%）と前回は下回る事となった。これは、大阪北部地震により施設設備の使用が制限されたり、グラウンドの一部が長期間にわたり使用不可となったためと考えられる。</p> <p>代替の場所や手段を確保するなど教育活動の保障は行ったが、必ずしも満足のものとは言えない部分もあったので、次年度は災害後の教育の機会の保障という点からも、手立てを考えていきたい。……………（○）</p>
<p><b>次年度に向けて</b></p>	<p>朝のランニングを多くの学年で取り入れるなど大型遊具の活用と合わせて、児童生徒の体力の増進に取り組んでいる。授業だけでなく学年行事においても大型遊具の活</p>

用も増やすなど、児童生徒の運動不足や体力の低下に対しての課題解決を引き続き図っていきたい。

前年度、遊具についての保護者の認知度を高める（「分からない」という回答を 20% から 15%にする）という課題は、今年度のアンケートで「分からない」と回答した割合が最高でも 14%であり、ほとんど 10%以下にすることができた。

さらに、卒業後は地域で生活する児童生徒も多いことから、地域に根差した支援学校として、この大型遊具の活用を通して、まず地域の保育所との交流を進めていく予定である。